認証評価結果の活用方法について（案）

（これまでの決定事項）

- 「評価実施要項」の「第1節 学部・研究科等の現況分析」及び「第2節 中期目標の達成状況評価」において、「認証評価に関する資料については、いずれかの認証評価機関が実施した評価結果や提出資料・データ等を達成状況報告書の根拠資料・データ等として活用することなどが考えられます。」と記載している。（「評価実施要項」P11、P19 参照）
- 「実績報告書作成要領」の「第1章 学部・研究科等の現況調査表」及び「第2章 中期目標の達成状況報告書」において、「認証評価の評価結果等を、根拠となる資料・データとしてそのまま活用する場合には、当該箇所を注記すれば、そのコピー等を添付する必要はありません。」と記載している。（「実績報告書作成要領」P6、P22 参照）
- 「認証評価の国立大学法人評価における活用例」（P2 参考 国立大学教育研究評価委員会（第30回）資料2-4）において、「機関別認証評価（並びに専門分野別認証評価）の評価結果について、国立大学法人評価の提出資料として依頼し、指摘事項などについて、参考に評価を実施する」こととしており、国立大学法人等評価実務担当者説明会においても説明している。

《評価の方向性》

- 法人が根拠となる資料・データとして認証評価の評価結果等を示した場合は、該当箇所を評価者に提供する。
- 法人が根拠となる資料・データとして認証評価の評価結果等を示していない場合においても、直近の機関別認証評価の評価結果の概要を評価者に提供し、評価者は、機関別認証評価の評価結果の概要を中期目標の達成状況評価の資料の一つとして活用する。
また、機関別認証評価の評価結果で指摘事項がある場合は、必要に応じて、その対応状況等について、提出資料として依頼し、それらを参考に評価を実施する。

認証評価の国立大学法人評価における活用例

認証評価の国立大学法人評価への活用方法としては、例えば以下のようなものが考えられる。

(1) 認証評価結果を国立大学法人評価のエビデンスとして活用

法人が、機関別認証評価(並びに専門分野別認証評価)の結果を、国立大学法人評価の際にエビデンスとして、活用する。

例えば、認証評価結果の指摘事項として記載されている事項について、法人は、それらと関係のある中期目標の達成状況評価のエビデンスとして取り上げることが考えられる。

【中期目標の達成状況報告書への記載イメージ】

平成〇〇年度に単位互換を視野に入れた〇〇市内3大学共通の遠隔授業システムを開発し、模擬授業と特別講演の中継を行った。……更に、県南部の本学〇〇キャンパス(平成〇年度設置)にも配置、今後、遠隔地の高校生も配信授業が聴講できる体制を整備し、高大連携の促進を図った。(認証評価結果 P〇〇参照)

〇〇大学

〇〇大学に対する大学評価(認証評価)結果

I 評価結果
評価の結果、貴大学は本協会の大学基準に適合していると認定する。認定の期間は2018(平成30)年3月31日までとする。

II 総評
一 理念・目的・教育目標の達成への全学的な姿勢
貴大学は、「21世紀を担う有為な人材を育成するとともに、開かれた大学として本……」

(2) 認証評価の提出資料の活用

機関別認証評価(並びに専門分野別認証評価)の提出資料を国立大学法人評価の提出資料とする。

資料を転載または、共通化することにより、法人における提出資料の作成の負担が軽減される。

【例: 単位互換協定に基づく単位認定の状況】

表3-5
単位互換協定に基づく単位認定の状況及び単位互換協定以外で大学独自に行っている単位認定の状況(前年度実績)

学部・学科	単位互換協定に基づくもの					単位互換協定以外のもの						
	認定者数(a)	他大学		短期大学		1人当たり平均認定単位数(b+c)/a	認定者数(d)	大学・短大・高専等		その他		
		認定単位数(b)	専門科目	専門以外	認定単位数(c)			専門科目	専門以外	認定単位数(f)	専門科目	専門以外
〇〇学部	〇〇学科											
〇〇学部計												
〇〇学部	〇〇学科											
〇〇学部計												
合計												

(3) 認証評価結果を提出資料として活用

機関別認証評価(並びに専門分野別認証評価)の評価結果について、国立大学法人評価の提出資料として依頼し、指摘事項などについて、参考に評価を実施する。

【例:評価結果の抜粋】

(2) 教育方法等

全学部

入学時から高学年にいたるまで、オリエンテーションを通じて履修指導がきめ細かく行われており、各学部・学科の教育目標、到達目標およびそれを達成するための「くさび型カリキュラム」を学生に徹底させるための努力が継続的に行われている。

シラバスは一定の書式で作成されているが、各回の授業内容に関しては教員間で記述の内容や量などに精粗があり、改善が望まれる。また、1年間に履修登録できる単位数の上限などについては設定されていないので、あわせて改善が望まれる。

(4) その他